

## テッポウユリの二度切り栽培に関する研究

(第1報) 栽植深度および球根露出時期が発芽、品質に及ぼす影響

松川時晴・\*吉田博美・\*\*吉田徹生

(福岡県園芸試験場・\*福岡県宗像普及所・\*\*福岡県農業技術課)

テッポウユリの二度切り栽培では、発芽・抽台率の向上が強く望まれてきた。予報では、促成栽培の切花後覆土を除き球根に光を当てることによって、発芽率を向上させる効果が大いことを報告した。本報では、球根の栽植深度と球根露出時期が発芽および品質に及ぼす影響について検討した。

## 材料および方法

球根は沖永良部島産の“ひのもと”を用い、福岡県玄海町の現地で3作型の促成栽培をした球根を供試した。試験区は1区50球の2反復、温度管理は夜温8℃とした。二度切り栽培の生育中に不良茎を間引きし、3.3㎡当たりI型・II型180本、III型150本とした。

## 結 果

促成栽培：開花期は浅植えほど早くなったが、茎出根の発育が悪いため茎が曲がりやすく、上物率が低下する傾向が認められた。

二度切り栽培：初期の発芽率は球根露出植えおよび露出時期が早い区において高い傾向が認められたが、中期および最終発芽率には差が認められなかった。I型、II型では発芽した球根の全てが抽台したがIII型ではりん片葉だけ発生する不抽台個体が認められ、抽台率が低下し

た。栽植深度に影響は認められなかったが、露出時期が早い区は抽台本数がやや少なかった。促成栽培の開花期が遅い作型ほど草たけ、花数などの量的形質の発育が劣った。開花期は球根を露出することによって7～10日間程度早くなったが、栽植深度や球根露出時期による差は認められなかった。収穫本数、上物率は露出時期が早い区および再冷蔵処理区ではやや劣った。

以上から、促成栽培の出荷期が遅い作型ほど球根露出の効果が顕著に認められたが、露出時期は切花後に行った区で抽台本数が増加した。一方、栽植深度が発芽、品質に及ぼす影響はほとんど認められず、覆土除去の労力面から浅植えが望まれる。

第1表 促成栽培の概要(1977年)

作型	球根重量	温湯処理	冷蔵	定植	切花の収穫期間
I	115g	45℃・90分	8℃・45日	8月12日	10月4日 ～10月24日
II	63	45℃・60分	8℃・48日	9月12日	11月29日 ～12月15日
III	45	45℃・60分	8℃・45日	9月22日	12月16日 ～12月30日

第2表 二度切り栽培における発芽・抽台・開花および収穫本数

区	処理方法			最終発芽率(%)			抽台本数(本)			草たけ(cm)			収穫日(月・日)			収穫本数(本)			
	覆土 (cm)	露出時期(月・日)			I型	II型	III型	I型	II型	III型	I型	II型	III型	I型	II型	III型	I型	II型	III型
		I型	II型	III型															
1	5	—	—	—	75	23	3	159	34	4	72	47	47	5・15	6・7	6・7	119	34	3
2	5	10・7	12・2	12・16	100	99	99	208	73	153	82	47	49	5・8	5・27	5・29	172	155	93
3	5	10・28	12・22	1・6	99	98	100	245	218	173	83	58	50	5・5	5・26	5・28	177	180	150
4	1	—	—	—	77	34	12	154	43	14	77	49	45	5・13	6・2	6・9	145	23	8
5	1	10・7	12・2	12・16	100	99	98	245	184	133	88	51	47	5・6	5・27	5・31	175	167	91
6	1	10・28	12・22	1・6	100	100	99	268	205	161	87	55	50	5・5	5・27	5・29	180	179	150
7	—1	全期間	全期間	全期間	100	99	98	271	204	165	81	57	52	5・8	5・27	5・29	171	180	148
8	5	(12・9)	(2・2)	(2・17)	98	99	71	203	240	136	84	56	45	5・2	5・31	6・7	178	178	65

\*は球根再冷蔵区で( )は定植日